

雑 報

553.316 : 550.85 (521.13)

宮城県矢本町沼鉄鉱床調査報告

新赤井鉱業株式会社の申請に基づく受託調査として、
鉱量算出の基礎資料をうることを目的とし、昭和29年
下旬、宮城県桃生郡矢本町の沼鉄鉱床を調査した。

鉱床は市街地北方の水田の表土下に胚胎し、最大層厚
40 cm に達し、その下盤は多くの場合粘土質で、直接砂
と接する部分は稀である。鉱床の上部は多孔質堅硬ない
しやゝ粗鬆の塊状をなし、下部は粘土を含み、土状に移
化する場合が多いが、全く塊状あるいは土状をなす場合

もある。時には少量の藍鉄鉱を伴なう。各鉱床の平面積
は区々で、数 m^2 のものから $8,000 m^2$ に達するものま
である。その形態も種々であるが、一般に E-W に延び
た細長い形を呈している。層厚にも変化があり、概して
周辺へ向かうにしたがい薄くなる傾向がある。塊鉄の品
位は Fe 30~60 %、粉鉄は 30 % 内外である。(調査：奥
海靖・高橋兵一、抄録：宮本)